

神々の古事記
本殿 天祖父社

「禊祓い」

伊邪那岐命は妻を恋しく思い黄泉国へ降った。しかし、伊邪那美命の醜い姿を見て、恐怖に凍りつき、一目散に逃げ出しました。逃げ帰った命は「私はすっかり穢れてしまった。禊をしなければならぬ」と言われました。そこで、筑紫の国の朝日射す、橘の木の青々と生い茂った、海に近い河口あたりの阿波岐原で、禊祓いの儀式を行いました。命が脱ぎ捨てた衣類や装飾品からも神々が生まれ、命が河の中で身体を洗い清めると、さらに神々が生まれました。

最後に、左目を洗うと天照大御神、右目を洗うと月読命、鼻を洗うと建速須佐之男命が誕生しました。命は、私は三柱の尊い御子を得ることができたと喜ばれ、高天原、夜之食国、海原をそれぞれ治めよと御子たちに命じました。



この禊祓いは、神社で参拝する前に行う手水の作法（手水舎にて手や口を洗い身を清める）の始まりとされています。

廣峯神社の本殿中央には、主祭神である素戔嗚尊を、右殿には禊祓えで誕生した久那斗神、八衢彦神、八衢姫神の三柱の道祖神をお祀りしています。この道祖神は外部から進入しようとする悪神を防ぐ神さまです。

御旅所にある天祖父社には、素戔嗚尊の姉神であられ、日本の総氏神さまであられる天照大御神をお祀りしています。